

## 魅 Can 部 R7.11 月の取り組み

私たち地域デザイン部は、11月3日（月）に土居町関川河川敷で開催された「第1回しこちゅ一笑顔マルシェ」において、会場に来ることができない方々へ商品を届ける取り組み「Doi EATs（ドイイーツ）」を実施しました。

この活動は、普段買い物に出かけることが難しい高齢者や障がいのある方々に、マルシェで販売されている商品を配達するとともに、直接交流することを目的としたものです。単なる物品の配送にとどまらず、「笑顔を届ける」ことを大切にし、人と人とのつながるきっかけを生み出すことを目標にしました。高齢者や障がいの方々と直接つながることで、見守り機能の強化や孤立防止につながり、地域福祉に大きく貢献できると考えました。今回は市内にある5か所の福祉施設にご協力をいただき、注文数は150件にのぼりました。これは当初の予想を大きく上回るもので、地域のニーズの高さを実感するとともに、多くの方に喜んでいただけたことを大変うれしく思いました。また、土居町内のヒカリ紙工様には本活動にご協賛いただきました。



今回のドイイーツの実践を通して、地域の困りごとに向き合う責任の重さと、その分の大きなやりがいを学びました。関係者との交渉や事前の段取り、仲間との協力、そして地域の方々の笑顔に触れる経験は、教室の中では得ることのできない貴重な学びでした。第1回しこちゅ一笑顔マルシェでは、多くの来場者や地域の方々とのつながりを実感することができました。準備や配達、集計作業など、一つ一つの活動が地域の安心や笑顔につながっていることを体感し、少人数であ

っても、仲間や地域の支援があれば大きな成果を生み出せることを学びました。活動の中での失敗や戸惑いも、私たちの成長につながる大切な経験となりました。また、アンケートでいただいた意見は、次回に向けた改善点として今後の活動に活かしていきたいと考えています。



今回のドイイーツは、高校生と地域、そして未来をつなぐ第一歩となる取り組みでした。今後も私たちは、自転車を通して地域の笑顔を広げるとともに、地域課題の解決に挑戦し続けていきます。

最後に、今回の活動を行うにあたり、四国中央未来塾の皆様には大変お世話になりました。この取り組みが実現できたのも、未来塾の方々の献身的なご支援とご協力があったからこそだと感じています。今後も地域とつながり、笑顔を届ける活動を継続していきたいと思います。

魅 Can 部 R7.11 月の取り組み